

# 哲學研究

第三十九卷 第九册

第四百五十五號

昭和三十三年九月一日發行

人間存在と超越……………三宅剛一

シェリング神學思想の父祖たち……………エルンスト・ベンツ

ヘーゲルの人間學の性格……………船山信一

——體系におけるその地位——

ブルーノの死……………清水純一

彙報

教育学部

京都大學文學部内  
京都哲學會

## 京都哲學會規約

## 京都哲學會役員

一、本會は廣義における哲學の研究とその普及を圖ることを目的とする

一、右の目的のために左の事業を行う

(一) 毎月一回會誌「哲學研究」を發行する

(二) 毎年公開講演會を開く

(三) 隨時研究會を開く

一、本會の事業を遂行するために委員若干名をおく

委員は京都大學文學部哲學科教官及び委員會において推薦したものに委嘱する

一、本會に賛助員若干名をおく 賛助員は會員の中から委員會が推薦する

一、本會は會員組織とし會員には資格の制限を設けない 學校・圖書館・其他の團體は團體の名を以て入會することができる

一、會員は會費として年一、二二〇圓(會誌十二冊分を含む)を前納する

但し 二回又は三回に分納することもできる

一、會員は會誌の配布を受け會誌に豫告する諸種の行事に出席することができる

一、本會は事務所を京都大學文學部内におく

一、規約の改正は委員會の決定による

### 委員

本	武	松	蓮	野	西	長	田	武	高	園	島	重	酒	柿	白	上	井	石	池	有
吉	藤	尾	實	田	谷	尾	中	内	田	原	芳	澤	井	崎	井	野	島	田	田	賀
良	一	義	重	又	啓	雅	知	義	三	太	俊	修	祐	二	照	勉	仁	義	太	郎
治	雄	海	康	夫	治	人	郎	範	郎	郎	夫	郎	修	一	尚	夫	勉	仁	祐	郎

同博士が神學、哲學、歴史の各領域に展開されてゐる赫々たる業績については最早多言を要しないであらう。譯出に當つては文學部有賀鐵太郎教授、教養部鹽谷饒助教授の御指導を得た。譯註の大部分（\*印のものは、博士の著、Schelling, Werden und Wirken seines Denkens (Zürich, 1955) 及び Schellings theologische Gesetzmäßen (Mainz, 1955) に據つたが、その他に於て疑ひの存するものは、一應 Der große Brockhaus (1955, Wiesbaden) に従つた。なほ譯文中（ ）は原文中の括弧を示し、又、〔 〕内及び（ ）内の原語と○の傍點は、意味補足のために附加したものである。（譯者）

前 號 目 次

室町時代初期に於ける 畫僧如拙の存在意義	………	連 實 重 康
リルケに於ける 限界没却の理想	………	三 浦 友 幸 譯 谷 友 幸 譯
ヘーゲルに於ける行爲の構造	………	中 埜 肇
——特に悲劇に關聯して——		
新刊紹介 G・マランチュク「S・キヤケゴリアの 著作入門」 「S・キヤケゴリアの教會攻撃」	………	大 谷 長
彙 報	………	大 谷 長

(op. cit. p. 107)の言葉も元來はペトラルキスト輩に投げられた皮肉であつて、いはば惡意なき誤解ともいふべき一例であらう。

- (12) Doc. Ven. XI.
- (13) cf. Ernest Baldi; G. Bruno, 1955 p. 69
- (14) cf. Eugenio Garin; La Filosofia, Vol. II, 1947 pp. 10-11
- (15) cf. G. Ruggiero; Storia della Filosofia, Par. III Vol. II pp. 191-208
- (16) Doc. Ven. XVII.
- (17) 前註の(5)参照

(筆者 廣島大學文學部〔哲學〕助教授)

次 號 論 文 豫 告

近代美術におけるアトム化……マックス・ピカソ	佐野利勝譯
ヘーゲルの人間學の性格(下)……船山信一	
——體系に於けるその地位——	
「墨子」兼愛説に對する……保田清	
倫理學的考察……	
ブルーノの死(完)……清水純一	

會告

本京都哲學會におきましては、本誌の定期的刊行をより圓滑ならしめるために、本四百五十五號より創文社を發行所とする事に致しました。従つて今後、編輯、會費拂込み及び入會事務の一切は、京都市左京區吉田本町京都大學文學部内 京都哲學會(振替口座京都四〇三九番)にて、又雜誌の發行及會員への送付、直接購入の一切は東京千代田區代官町二 創文社(振替口座東京九二四七二番)にて行ひますから御諒承を願ひます。

なほ昭和十四年以來戰中戦後の多難な時期に本誌の經營を引受けられた弘文堂にはこの際深甚の謝意を表するものであります。

昭和三十三年八月一日

京都哲學會

會告

京都哲學會委員會では先般、新たに全國各地に若干名の賛助員を委嘱し、學會の擴充と機關誌の充實とに關する御助力を仰ぐことを決議しました。幸ひ現在までに左の諸賢の御承諾を得ましたので、誌上で御紹介致します。なほこの際會員各位に於かれましたも、宜しく學會の擴充に御協力下さるやうお願ひ致します。

京都哲學會賛助員(昭和三十三年八月)

- |     |       |              |     |
|-----|-------|--------------|-----|
| 北海道 | 落合健一  | (札幌、藤女子短期大學) | 助教授 |
| 東北  | 石津照聖  | (東北大學)       | 教授  |
| 關東  | 石澤要   | (群馬大學)       | 教授  |
| 東京  | 大島康正  | (日本教育大學)     | 教授  |
|     | 高島岩男  | (東京教育大學)     | 教授  |
|     | 下村寅太郎 | (東京教育大學)     | 教授  |
|     | 淡野安太郎 | (東京大學)       | 教授  |
| 中部  | 高橋剛一  | (學習院大學)      | 教授  |
|     | 三宅剛一  | (靜岡大學)       | 教授  |

- |    |       |          |    |
|----|-------|----------|----|
| 京都 | 高井光八  | (岐澤大學)   | 教授 |
|    | 濱田正與  | (京都大學)   | 教授 |
|    | 三村勲   | (同志社大學)  | 教授 |
|    | 山元一   | (龍谷大學)   | 教授 |
| 近畿 | 澤瀉久郎  | (立命館大學)  | 教授 |
|    | 片山正敬  | (大阪大學)   | 教授 |
|    | 鹿野治郎  | (關西學院大學) | 教授 |
|    | 服部英次  | (大阪市立大學) | 教授 |
| 中國 | 堀野喜望  | (奈良女子大學) | 教授 |
|    | 近藤善望  | (神戸大學)   | 教授 |
|    | 河野憲   | (島根大學)   | 教授 |
|    | 藤洋逸   | (岡山大學)   | 教授 |
| 四國 | 服部知文  | (廣島大學)   | 教授 |
|    | 佐伯延次郎 | (高知大學)   | 教授 |
| 九州 | 長澤信守  | (鹿兒島大學)  | 教授 |
|    | 米倉倉   | (九州大學)   | 教授 |

昭和三十三年八月一日

京都哲學會

(注) 括弧内は賛助員各位の現勤務先——但し京都大學以文會名簿、一九五八年版による——です。

會告

京都哲學會前委員、早稻田大學文學部研究科教授、矢野達郎先生は、藤野翁のため豫ねて東京藤野翁病院に入院され、未だ病癒せず、去られたが、その効なく、去る三日前、先生がわが國の心理學界及び廣く思想界に打樹てられた御好意をふりかへつて痛惜の念に堪へません。謹んで先生の御冥福を祈ります。

昭和三十三年八月一日

京都哲學會

會 告

一、本會は會員組織とし會員には資格の制限を設けません、入會希望の方は京都市左京區吉田京都大學文學部内京都哲學會（振替口座京都四〇三九番 京都哲學會）宛に規定の會費（年一、二二〇圓又は半年六一〇圓）をお拂込下さい

又會員への會誌送付、バックナンバー購入、及び發賣に關する一切は東京都千代田區代官町二 創文社

（振替口座東京九二四七二番創文社）宛に願ひます  
一、會費切れの場合は封筒に「前金切」の印を捺しますから直ちに御拂込下さい、（一年分又は半年分）

會費は原則として本誌十二冊（又は六冊）の送附済を以て前金切れとし、會費の變更其他の事情による過不足は一年（又は半年）毎に精算します

一、會員の轉居入退會の事務及び編集事務の一切は京都哲學會宛に御通知下さい

一、本誌の編集に關する通信・新刊書・寄贈雜誌等は本會宛にお送り下さい

京 都 哲 學 會

京都市左京區吉田  
京都大學文學部内

昭和三十三年八月二十五日印刷  
昭和三十三年九月 一 日發行

編集人

京 都 哲 學 會

京 都 大 學 文 學 部 内  
編 輯 代 表

酒 井 井 修

發行人

久 保 井 理 津 男

印刷人

東 京 都 千 代 田 區 代 官 町 二

印刷所

堀 内 文 治 郎

印刷所

堀 内 印 刷 所

東 京 都 神 田 三 崎 町 二 一 六

發行所

株式會社

創 文 社

東 京 都 千 代 田 區 代 官 町 二

振 替 口 座 東 京 九 二 四 七 二 番

電 話 丸 ノ 内 (23) 四 〇 〇 八 番

註 文 規 定

一、會員以外の購讀者の御注文及び廣告掲載に關する件は「創文社」へ御申込下さい

一、本誌の御注文はすべて代金送料共（一部、定價一  
二〇圓、送料・八圓）前金にてお送り下さい

昭和三十三年八月二十五日印刷(毎月一回)

THE JOURNAL  
OF  
PHILOSOPHICAL STUDIES  
THE TETSUGAKU KENKYU

Vol. XXXIX

September 1, 1958

No. 9

*Das Sein des Menschen und die Transzendenz*.....Gôichi Miyake

*Schellings theologische Geistesahnen*..... Ernst Benz

*Der Charakter der Hegelschen Anthropologie (I)*...Shinichi Funayama

*On the Death of Bruno (I)* ..... Junichi Shimizu

Published Monthly

By

**THE KYOTO PHILOSOPHICAL SOCIETY**

(The Kyoto Tetsugaku-Kai)

Kyoto University

Kyoto, Japan

定價 一〇〇圓

IBM 6472